

## 2021年度 国際芸術センター青森 事業計画

2021年12月に開館20周年を迎える機会を捉え、これまでの事業を整理し、アーティスト・イン・レジデンス(AIR)、展覧会、教育普及を3つの柱とし、世界・国内・地域で比較しても特徴的な魅力を持つアートセンターとして事業を展開する。ACACではアーティストが持つユニークな視点が、青森発の新たな価値の創造の機会をもたらすと共に、物的・人的資源の発掘・再考の機会や、教育的効果をも与えることをこの20年で実証してきた。新型コロナウイルス感染症によって移動が困難な状況は続くものの、アーティスト、学生や市民、学校や美術施設等関係機関との丁寧な関係構築を行い、事業を継続していく。

春期には、近年注目度の高いアーティストグループの個展を開催する。滞在施設のあるアートセンターとして、ACACの環境でしか実現することの出来ない先進的な表現を紹介する。夏期に行う指名型AIRでは、青森県出身のアーティストを招聘すると共に、青森在住の研究者や職人と協働し滞在制作を行うアーティスト2名を招聘し、ACACでの滞在制作の利点を生かしたAIRを開催する。なお、本事業成果展覧会は、夏期と冬期に分けて行う。また年1回のシリーズとして継続してきた「ヴィジョン・オブ・アオモリ」特別編として、平川市で農民生活に根差した工芸の保存や普及に尽力した、大川亮の生誕140周年に合わせた、大川氏コレクションを借用しての展覧会を冬期に行う。

公募AIRでは、2020年度の実施形態と同様、展覧会参加を必須とせず、ワークショップ、公演、トーク、学校訪問のうちいずれかの交流プログラムを行うことを条件とすることで演劇や文学、ダンスなど幅広い領域の芸術家の参加を促す。

また、海外AIR実施団体との連携拡大・強化を目指す。新型コロナウイルス感染症の影響により、2020年度に招聘(ロシアのZARYACCAとニュージーランドのTAUTAIからの推薦による)と派遣(ロシアのZARYACCAへ)が叶わなかったアーティストについては、2021年度に振り替えて招聘、派遣を実施する。

2020年度に、県内5つの美術施設による「青森アートミュージアム5館連携協議会」が発足し、現在連携手段について意見交換がなされており、2021年度に5館でテーマを統一した事業を実施する可能性もある。その場合は、トークイベントやシンポジウム開催等の市民交流事業、もしくは公募においてテーマを定めた枠を設けるなどで対応する予定であるが、現時点では5館の合意形成が為されていないため、今後の議論展開に応じて決定する。

## ■展覧会事業「<sup>サイドコア</sup>SIDE CORE～<sup>エブリディ</sup>EVERYDAY HOLIDAY <sup>スクワッド</sup>SQUAD個展（仮）」

○期間 2021年4月中旬～6月中旬

○候補アーティスト

SIDE CORE～EVERYDAY HOLIDAY SQUAD～

(サイドコア～エブリディ・ホリディ・スクワッド～)

※詳細については、別添資料「要回収1：展覧会事業招聘アーティスト候補者リスト」参照。

○内容

日本人アーティスト3名（高須咲恵、松下徹、西広大志）でストリートカルチャーを軸とした作品発表やイベント企画も行っているアーティスト集団「SIDE CORE（サイドコア）」に映像作家1名を加えたメンバーで構成される、「EVERYDAY HOLIDAY SQUAD（エブリディ・ホリディ・スクワッド）」というアートチームによる個展を開催する。青函トンネル建設工事や県内の美術館など公共事業の調査をもとに、土地にまつわる様々なものを国際芸術センター青森の展示空間に持ち込み、施設の内外が反転するような展示を目指す。また会期中は、ワークショップ等の交流プログラムを開催するほか、ギャラリー内で公開される壁画の制作をアーティストと学生及び市民と共に作り上げるなど、交流の場を積極的に設けていく。

○期待される効果

SIDE COREはこれまで、公共空間の隙間に介入し、様々な人々と共に社会において新しい行動を生み出していくための実践を行っており、ACACでも公共事業や街といった、誰にとっても身近な対象に対しアプローチする展覧会となることが期待される。これまでも企業、行政機関と協働で作品を制作することが多く、青森でも様々な業種の市民との関係作りを基に作品が制作されること、更には、ストリートカルチャーを軸にした作品制作を行うため、これまでにない幅広い客層を呼び込むことが予想される。また、ギャラリー内で大きな壁画を描くなど、市民・学生との協働も期待できる。それ以外にも、トークやイベント等の交流プログラムが多様に展開できる。公共美術施設では「EVERYDAY HOLIDAY SQUAD」としての個展は初であるため、注目度も高く県外の美術愛好家の興味を集めることが期待される。

## ■アーティスト・イン・レジデンス（指名型）

○期間 2021年4月上旬～3月初旬

（展覧会開催期間：7月下旬～9月上旬及び12月下旬～3月初旬）

○候補アーティスト

①西川◎友美

②しまうちみか

③松本美枝子

※詳細については、別添資料「要回収1：アーティスト・イン・レジデンス事業（指名型） 招聘アーティスト候補者リスト」参照

○内容

2021年に20周年を迎えるにあたり、ACACの活動を支え、はぐくんできた青森の人や団体、環境を、AIR事業を通してより深く掘り起こすことを目指す。①西川氏と②しまうち氏については4月上旬から調査を始め、7～9月に展覧会を行う。③松本氏は滞在制作の過程を重視し、滞在は4月～11月、展覧会は12月～3月に実施する。

招聘アーティストの西川◎友美氏は青森県八戸市の出身で、デザイン事務所 10 inc.に勤務しながら制作を行い、木製パネルを用いた屏風絵を思わせるユーモラスな作品を発表しており、ACACにおいても空間を生かした親しみのある作品による展覧会を行う。

彫刻を制作するしまうちみか氏と写真を表現手段とする松本美枝子氏は、青森市の博物館、木材・石材加工会社、ガラス工房、また県内他大学に所属する科学や地理等の研究者などへのリサーチと協働を基に滞在制作を行う。

○期待される効果

西川◎友美氏はグラフィックデザイン制作の経験を基に、第19回グラフィック「1\_WALL」グランプリ受賞（2019）やJAGDA新人賞2020を受賞するなどデザイン分野でも評価されてきた。アートとデザインの領域をまたいで活躍する青森出身のアーティストを紹介し、関連イベント等で交流することで、市民の創作意欲を高めることが期待できる。

しまうちみか氏は、ドローイングから大型の彫刻作品まで幅広く発表するアーティストであり、本事業では、研究者や工房等、青森で活動する個人や団体の協力を得ながら、信仰や祭り、陶芸文化についての調査を踏まえて作品制作を行う予定のため、制作過程において美術の領域を超えた交流が広がることが期待できる。

松本美枝子氏は、震災後の街と人の変化など繊細な問題も題材としながら、写真と映像作品を制作し、近年では、自然・科学・人を横断しながら地域の人との協働でのリサーチを長期的に行っている。本事業では、青森の自然や歴史をリサーチする過程で、学生や市民を巻き込むことと、作品において青森の風土を新たな視点で促え直し、提示することが期待される。

## ■アーティスト・イン・レジデンス事業（公募型）

○期間 9月上旬～12月上旬

滞在期間：2週間1区切りとし、最短1区切り、最長7区切り（3か月半）までの滞在

○招聘人数 6～7人程度（うち海外AIR実施団体からの推薦2名）

○内容 短期間の滞在や、必ずしも展覧会に参加しないアーティストも招聘することで、演劇や文学、ダンスなども含めた幅広い領域の芸術家の滞在を可能にし、AIR事業の可能性を探る。最短2週間、最長3か月半の滞在期間中、ワークショップ、レクチャー、公演、展覧会、学校訪問のうちいずれかの発表もしくは市民との交流プログラムを行うことを条件とする。招聘人数は6～7名程度とし、そのうち2名は海外AIR実施団体に推薦を依頼する。また、海外AIR実施団体との関係強化、ネットワーク拡大を目的に、日本人アーティストを海外AIR実施団体に派遣するが、新型コロナウイルス感染症の影響で2020年度の招聘・派遣が不可能だった場合は、2021年度に振り替えて実施する。

○期待される効果

展覧会を必須としないことで、展覧会という発表形式に馴染まない幅広い分野の芸術家を受け入れることができる。それに伴い、美術の分野のみに関わらない新しい来館者層の発掘につなげることができ、更に幅広い分野へ向けて本事業をより広く発信することができる。また、コア期間は敷地内各所を使って様々なプログラムを行うことで、来館者にはギャラリーにとどまらずACAC全体を楽しんでもらうことができる。

○公募スケジュール

- 1月中旬 公募開始
- 2月中旬 公募締切
- 3月下旬 1次審査会
- 5月下旬 2次審査会
- 6月中旬 教育研究審議会にて内定者審議・承認
- 7月上旬 候補者公表

○アーティスト選考審査

ACAC学芸員3名と外部審査員1名によって行う。

○外部審査員候補者（下記より1名を予定）

- 田中みゆき（キュレーター、プロデューサー）
- 岡部あおみ（研究者、キュレーター）
- 白川昌生（アーティスト）

※詳細については、別添資料「要回収1：アーティスト・イン・レジデンス事業（公募型）外部審査員候補者リスト」参照

## ■地域資源活用事業

### 「ヴィジョン・オブ・アオモリ」特別編 ～大川亮コレクション展覧会（仮）

○期間 2021年12月下旬～2022年3月初旬

○候補アーティスト

大川亮コレクション（大川けい子氏所蔵）

○内容 青森県平川市で民藝運動の先駆的活動を行った大川亮（1881-1958）氏が蒐集した古作こぎんの身頃、織ゲラなどを通して津軽地方の伝統工芸、特にその図柄に着目し、農民生活の中の美や農村の暮らしの安定などを目指した氏のヴィジョンを明らかにする。大川けい子氏所蔵のコレクションを借用し、担当学芸員の調査およびグラフィック・デザイナーとの協働による展示を行う。

○期待される効果

大川亮氏は、柳宗悦を中心に展開された民藝運動（1926～）の再評価に伴い、近年その先駆的な活動に注目が集まっている工芸品のプロデューサー、コレクターであり、平川市大光寺を拠点に農民の生活を守るべく尽力した人物である。2021年に生誕140周年を迎えるが、これを記念する展覧会は他に実施されない予定となっている。現在、こぎん刺しをはじめとする土地に根差した伝統工芸は趣味として楽しむ人も多いが、古作のこぎんが作られていた時代の農民の生活やそこに美を見出し伝えようとした人々の活動が一般的に知られているとは言い難い。本展覧会の開催によって、大川氏のコレクションとその思想が青森の人々により理解・認知され、国内および海外の手芸愛好家たちの関心を集め、日常に根差した表現の世界への思考を促すことが期待される。

## ■市民交流事業

○期間 随時

○内容

市民を対象としたワークショップやレクチャーを実施し、学生や市民への創作活動や学びの機会を設ける。

①ものづくり講座

例年人気が高い版画講座をはじめ実践的な講座を実施。

②アーティストによる講座

現代美術の分野で活動するアーティストを講師に迎えたワークショップやレクチャーを実施。

③建築・自然観察ツアー

ACAC の環境を生かし、地元の有識者と協働で行う建築や散策路のガイドツアーを実施。

④地元作家によるワークショップ

地元作家を講師に迎え、ワークショップやレクチャーを実施。

⑤若手アーティストによるトーク

若手アーティストが自身の活動についてプレゼンテーションするトークを実施。

⑥芸術関連イベントへの協力

市、市民、任意団体等が行う芸術関連イベントへの人的派遣などの協力。

## ■生涯学習事業

○期間 随時

○内容

学校及び市民団体等と連携して創作体験などを展開し、生涯学習の場を提供する。

①小学校に対する創作体験を提供する。

②中学校、高等学校に対する出張授業や職場体験を提供する。

③市民団体等に対する創作体験を提供する。

## ■広報 PR 事業

○期間 随時

○内容

①公式ウェブサイト、SNS を利用した展覧会開催、イベント告知、施設利用などの情報発信。

②『広報あおもり』へのイベント告知の掲載。

③展覧会開催に伴うチラシ・ポスターの作成、配布。

④施設 PR リーフレットの配布。

⑤記録誌の作成・配布。

⑥本学学生への PR として、学内の ACAC PR スペースに展覧会の案内などを告知する。

青森公立大学国際芸術センター青森  
2021年度事業スケジュール  
(案)

事業名	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下
2021年度	展覧会開催事業 「SIDE CORE～EVERYDAY HOLIDAY SQUAD個展(仮)」																							
	アート・イン・レジデンス事業 (指名型)																							
	アート・イン・レジデンス事業 (公募型)																							
ヴィジョン・オブ・アオモリ特別編																								
2020年度	展覧会開催事業																							
	アート・イン・レジデンス事業(指名型) 「いのちの裂け目(仮)」																							
	アート・イン・レジデンス事業 (公募型)																							
2021年度	市民交流事業																							
	生涯学習事業																							
	広報PR事業																							

